令和４年度健康管理概要

東京大学保健・健康推進本部

はじめに

保健・健康推進本部（保健センター）は、東京大学構成員のみなさまの健康保持、増進をミッションとしています。診療を担当する一般診療室と健康診断や健康管理業務を担当する健康管理室が一丸となり、全ての構成員のみなさまが、現在はもとより将来に渡り心身共に健康に過ごせることを目指して日々の業務に取り組んでおり、刻々と変化する世界情勢、学内の状況に、適切かつ迅速に対応できる健康管理サービスと健康増進を実践してきました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行とともに過ごした数年間でしたが、令和5年3月政府はマスクの着用に関して、個人の主体的選択を尊重し、個人の判断に委ねる方針を決定しました。このような社会情勢の変化に合わせて、本学でも通常の対面授業が中心となるなど、日常化に向けて動き出しています。保健センターでは、現在も発熱外来を設置して多くの構成員のみなさまの相談に対応しています。これまで培った経験を活かしながら、全ての大学構成員が安全で安心して活躍できるキャンパスになるよう、保健センターでは引き続き適切な感染対策に努めていきます。

本郷、駒場、柏キャンパスにある保健センターには、内科、精神科、耳鼻咽喉科、歯科、女性診療科（令和5年10月から）、整形外科、皮膚科の各診療科が設置され、構成員の体調不良や健康上の不安への対応を行っています。必要に応じて外部の医療機関とも連携を取り、専門医療機関への紹介も行っています。

健康管理室では、学生、教職員のみなさまの健康診断を実施し、所見に応じた事後措置（健康相談・生活指導等）を実施しています。健康診断は、学生、教職員のみなさまが教育研究活動に安心して取り組むための第一歩です。健康診断の受診率向上、健康づくりに役立つ健康診断を目指し、オンライン予約システムの活用や学内広報、健診後の保健指導の充実などの方策に取り組んでいます。

構成員の健康を守り、増進することが保健センターの役割です。今後もすべての構成員が、診療や健康診断を安心して受けられるよう気配りと体制整備を行っていきます。私どもの活動が、構成員の多様性を尊重し、多様化による組織の活性化に貢献できるようつとめていきます。東京大学を構成するすべてのみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

令和６年４月
東京大学保健・健康推進本部
本部長　戸田　達史

目　　次

Ⅰ　令和４年度学生健康管理状況の報告

Ａ．総　論　学生健康管理状況の報告 …… 1
１．学生定期健康診断受診率の年次推移 …… 2
Ｂ．令和４年度学生健康診断 …… 2
１．新入生健康診断 …… 2
総　論 …… 2
２．学生定期健康診断 …… 3
総　論 …… 3

Ⅱ　令和４年度職員健康管理状況の報告

Ａ．総　論　職員健康管理状況の報告 …… 4
Ｂ．令和４年度職員一般定期健康診断 …… 4
１．一般定期健康診断 …… 4
１）受診状況 …… 4
Ｃ．令和４年度職員特殊健康診断 …… 5
１．特殊健康診断 …… 5
１）受診状況 …… 5
２．放射線取扱者健康診断 …… 6
１）受診状況 …… 6

Ⅲ　令和４年度利用状況の報告

Ａ．健康管理部門 …… 7
１．健康管理業務（令和４年度） …… 7
Ｂ．診療部門 …… 7
１．内科 …… 7
２．精神科 …… 10
３．歯科 …… 11
４．耳鼻咽喉科 …… 15
５．整形外科 …… 17
６．皮膚科 …… 20
７．薬局 …… 21
８．ヘルスケアルーム（駒場地区） …… 24
Ｃ．検査部門 …… 25
１．放射線室 …… 25
２．検査室 …… 25

Ⅳ　研究活動

Ａ．研究業績 …… 27

１）英文原著 …… 27
２）邦文原著 …… 32
３）国際学会 …… 34
４）国内学会 …… 35
Ｂ．外部資金等 …… 38

Ⅰ　令和4年度学生健康管理状況の報告

A.総論　学生健康管理状況の報告

1. 学生定期健康診断受診率の年次推移

B.令和4年度学生健康診断

1. 新入生健康診断

2. 学生定期健康診断

A. 総論　学生健康管理状況の報告

保健・健康推進本部（保健センター）は、環境安全本部、相談支援研究開発センターと緊密に連携し、本学構成員の健康管理に携わっている。保健センターが設置されている本郷、駒場、柏キャンパスを中心に、遠隔地施設や学外施設などで活動している学生は27,000名余人に上っている。近年外国人留学生の増加は著しく4,500名を超えている。

保健センターには健康管理室と一般診療室があり、健康管理室は各種健康診断の実施と事後措置、及び保健指導・健康教育を主な業務としている。一般診療室には内科・精神科・歯科・耳鼻咽喉科・整形外科・皮膚科があり、それぞれの科が本学構成員を対象に診療を行っている。

学生の健康診断としては、春と秋の新入学生の健康診断、４～６月に行われる在学生の健康診断、教育実習予定者を対象とした健康診断、放射線取扱者を対象としたRI健康診断などが実施されている。

健康診断の受診、結果の閲覧や証明書の発行、健診項目で異常があった場合の事後措置などは所属キャンパスにかかわらずどの保健センターでも対応できる体制を整えている。循環器、呼吸器、消化器のほか幅広い領域に対応できるように医師を配置している。必要に応じて他の医療機関と連携し、適切な対応をとっている。

健康診断の受診状況では、春の新入生健康診断の受診率は例年100%を達成しているが、留学生の多い秋の新入生の健康診断は残念ながら未受診のままの者も見受けられる。また、在学生の定期健康診断の受診率の低迷は重要な課題である。近年では５割を切る状況が続いており、受診率向上のための取り組みを一層強く進めていきたい。学部によって、受診率に違いがみられており、各部局の取り組みにも期待したい。

個別の健診項目では、胸部エックス線検査における要治療及び要経過観察者の割合は、原因は明らかではないが、ここ数年は増加傾向が見られる。要治療と判定された者に対しては、適切な対応がとられるよう保健センターでサポートしている。

健康診断の受診率は低下傾向を認めているが、診療等のために保健センターを利用する学生の数は増加している。引き続きよりよいサービスが提供されるよう保健センターの役割を果たしていきたいと考えている。

1. 学生定期健康診断受診率の年次推移

学生定期健康診断受診率

年　度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
学部学生小計	81.4	82.0	74.5	66.1	47.3	36.2	39.9	22.4	39.0	41.0
大学院学生小計	65.9	59.4	60.0	61.1	55.3	57.8	62.5	45.4	50.0	53.8
総　　計	69.7	69.4	66.4	63.3	51.9	48.7	53.1	35.7	45.2	48.2

※平成29年度より休学中の学生も対象に含む。

B.令和4年度学生健康診断

1. 新入生健康診断

総　論

新入生健康診断は入学直後の授業開始前に、駒場キャンパス内のコミュニケーションプラザを会場として 6 日間の日程で実施した。例年通りほぼ 100%の受診率となっている。この健診では、各学生の全体的な健康状態の把握し必要な措置につなげること、集団生活における感染拡大防止のため結核などの感染性疾患を早期に発見すること、教養学部で行われる身体運動・健康科学実技（体育実技）授業への参加可否を判断することが重要な目的となっている。精神保健面接では、大学生年代に生じやすい精神疾患の早期発見と早期介入を目的に、WEB 問診と精神科医等専門家の面談によって評価し、必要な対象者には適宜フォローアップを行っている。9 月中旬には、教養学部英語コース（PEAK : Programs in English at Komaba）新入生にも同内容の新入生健康診断を実施している。健診の実施項目は、問診、医師診察、身体測定、胸部エックス線検査、血圧測定、尿検査、血液検査、心電図、聴力検査、精神保健問診となっている。9 月実施の PEAK 新入生も同様に実施された。

健診項目は以下である。

1　問診（家族歴，既往歴，症状など）
2　理学所見（内科医師診察）
3　身体計測（身長，体重）
4　胸部エックス線検査
5　血圧測定

6　尿検査（尿蛋白，尿潜血，尿糖）
7　血液検査（赤血球数、白血球数、血色素量、ヘマトクリット、血小板数、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ[AST]，アラニンアミノトランスフェラーゼ[ALT]，ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ[γ-GTP]、総ビリルビン、アルカリフォスファターゼ、乳酸脱水素酵素[LDH]，血糖、総コレステロール、中性脂肪、LDLコレステロール、HDLコレステロール、尿酸、クレアチニン、C反応性蛋白[CRP]）
8　心電図
9　耳鼻科健診（聴力検査）
10　精神保健

なお、平成9年度から健康診断の一環として、『健康のしおり』という冊子を用いて健康教育（飲酒事故防止や性感染症予防などのための集団指導）を行なっている。健康のしおりには、3地区の保健センターの利用法も記載されている。

2. 学生定期健康診断

総　論

学生定期健康診断は、学生定期健康診断Ⅰを修士課程、博士課程、研究生の第一学年を対象として実施し、学生定期健康診断Ⅱは、教養課程新入生および上記学年を除く学部学生、院生、研究生、留学生、受入れ研究員を対象として実施している。

問診、血圧測定、身体計測及び胸部エックス線検査は健診Ⅰ、健診Ⅱの共通健診項目として全受診者に対し実施し、更に健診Ⅰでは血液検査、尿検査、心電図検査を行っている。

秋の新入学生の健康診断以外の定期学生健康診断は、毎年6月末までに実施している。また、受入れ研究員に対しては、学生定期健康診断Ⅱの期間内に同等の健康診断（受入研究員健診）を実施している。

なお、保健センターでは定期健康診断を受診している学生に対してのみ各種診断書、証明書の発行を行っている。

Ⅱ　令和4年度職員健康管理状況の報告

A.総論　職員健康管理状況の報告

B.令和 4 年度職員一般定期健康診断

　1. 一般定期健康診断

C.令和 4 年度職員特殊健康診断

　1. 特殊健康診断

　2. 放射線取扱者健康診断

A. 総論　職員健康管理状況の報告

東京大学では教職員を対象として、定期健康診断を実施している。これには、一般健康診断（教職員定期健康診断）、特定業務従事者健康診断、特殊健康診断などが含まれている。雇入時の健康診断および海外派遣労働者の健康診断も定期的に実施している。何れも労働安全衛生法、学校保健安全法、感染症法などにもとづいて実施されており、保健センターは、これら健康診断の企画・実施・事後措置を業務としている。

医療保険者である文部科学省共済組合は、40 歳～74 歳全ての組合員、その扶養家族を対象として特定健康診査の実施義務を負っている。保健センターが実施する健康診断結果をもって、特定健康診査の結果として共済組合で管理することについては共済組合から協力要請があり、法令等に基づいて定期健診結果は、本目的のために共済組合に提供されている。

健康診断を快適に受診できる環境を実現しつつ、健康診断の質の維持を図るため、健康診断のあり方については継続して検討している。保健・健康推進本部には循環器、呼吸器、消化器、など様々な領域の専門医が在籍しており、スタッフの専門性を最大限に生かした、よりよい健診・医療サービスの提供を目指している。

保健センターは、生活習慣病の一次予防である生活習慣病発症の予防を重視するという立場から、単に健診の実施に終始することなく、その事後措置と健康啓発についても力を入れていく。今後とも関係各所のご理解とご協力をお願いしたい。

B. 令和 4 年度職員一般定期健康診断

1. 一般定期健康診断

1)受診状況

常勤職員の健康診断受診率　75.4%

C 令和 4 年度職員特殊健康診断

1. 特殊健康診断

特殊健康診断は労働安全衛生法第 66 条第 2 項および第 3 項に規定されるものであり、有機溶剤中毒予防規則、特定化学物質障害予防規則、鉛中毒予防規則、四アルキル鉛中毒予防規則、電離放射線障害防止規則、東日本大震災により生じた放射性物質により汚染された土壌等を除染するための業務等に係る電離放射線障害防止規則(除染電離則)、石綿障害予防規則、高気圧作業安全衛生規則に掲げる業務に従事する職員に対して年 2 回実施する(じん肺についてはじん肺法に基づき、管理区分等に応じた定期健康診断等を実施する)。令和 4 年度第 1 回は 9 月～11 月に、労働安全衛生規則第 44 条に規定されている一般健康診断の項目に上記省令で定められた健康診断項目及び産業医による診察を追加して実施した。第 2 回は 2 月～3 月に労働安全衛生規則第 45 条に規定されている特定業務従事者健康診断の項目に、上記省令で定められた健康診断項目及び産業医による診察を追加して実施した。

なお、各業務の従事者は、必ずしも単独の業務にのみに従事するわけではないという本学の特徴から、一人が複数の有害作業要因に対する特殊健診の対象となることが多いため、特殊健診対象者の総数は、各特殊健診対象者の合計(延べ人数)より少なくなっている。

1)受診状況

受診状況を特殊健康診断種別毎に集計した結果を表 1 に示す。令和 4 年度の受診率は第 1 回が延べ 1,752 件(92.1%)、第 2 回が 1,789 件(84.3%)であった。

表 1　特殊健診実施実績

健診種別	令和 4 年度第 1 回			令和 4 年度第 2 回		
	対象件数	受診件数	受診率	対象件数	受診件数	受診率
じん肺	4	3	75%	2	2	100%
鉛	12	12	100%	11	9	82%
四アルキル鉛	0	0	0%	0	0	0%
電離放射線	229	205	90%	229	192	84%
高気圧	3	3	100%	3	1	33%
石綿	7	6	86%	8	6	75%
歯科健診	30	29	97%	25	24	96%
有機溶剤	1,270	1,177	93%	1,405	1,196	85%
特定化学物質	347	317	91%	438	359	82%

のべ特殊健診数	1,902	1,752	92.1%	2,121	1,789	84.3%

2. 放射線取扱者健康診断

1)受診状況

放射線取扱者健康診断受診者数

	新規取扱者		定期（第 1 回）		定期（第 2 回）	
	職員他	学生	職員他	学生	職員他	学生
計	289	719	1,573	1,028	1,525	1,063

＊仕様の変更に伴い 2023 年 4 月より他職システムは職員システムに統合された。現表作成時（2024 年 1 月）、旧他職は、職員に分類。

Ⅲ　令和４年度利用状況の報告

A.健康管理部門
　１．健康管理業務（令和4年度）
B.診療部門
　１．内科
　２．精神科
　３．歯科
　４．耳鼻咽喉科
　５．整形外科
　６．皮膚科
　７．薬局
　８．ヘルスケアルーム（駒場地区）
C.検査部門
　１．放射線室
　２．検査室

A. 健康管理部門

1. 健康管理業務(令和4年度)

健康管理室の業務には、学生・教職員を対象とする各種健康診断の企画・実施、結果の判定・通知、健診事後措置としての面接・健康指導、及び健診結果に基づく各種証明書の発行等が含まれる。事後措置が必要な方は、保健センタースタッフによる面接、指導の他、保健センターでの診療を行い、必要に応じて外部医療機関への紹介を行っている。

B. 診療部門

1.内科

令和４年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残りながらも、感染力が強く致死率・重症化率が低いオミクロン株が主流となることで、当初の致死率の高い疾患という認識から変化してきた年である。また、９月以降はオミクロン株に対する新型コロナワクチンの接種が開始された。大学タスクフォースの方針でも、制限の緩和がさらにすすめられ、それとともにキャンパス内の人口も増加した。一方で時折新型コロナウイルスの流行がみられており、引き続きクラスター発生に留意する必要がある状態であった。

保健センター内科部門においても、キャンパス内の感染対策、ワクチン接種に対する情報発信に努めた。また、学内関係者からの個別の問い合わせに対しても、医学的立場から学内タスクフォースの指針や、各種行政からの指針などに即して回答するとともに、状況に応じて自宅近隣の医療機関や、保健センター発熱外来への受診を促すなどの対応を行った。

本郷地区

令和4年度は、新型コロナウイルス蔓延に伴う入校制限の影響もあり、内科診療受診総数4,937人（前年度4,524人、令和２年度2,782人、令和元年度7,662人）であった。内訳は学生3,300人(前年度2,798人、令和２年度1,477人、令和元年度5,340人)、職員1,637人（前年度1,726人、令和２年度1,305人、令和元年度2,322人)と、特に学生において前年より大幅に増加した。新型コロナウイルス流行以前（令和元年度）と比べ学生は6割、職員は7割程度までは回復を認めた。また、学生のうち留学生は1,027人、（前年度707人、令和２年度455人、令和元年度1,601人）であり、前年度より300人近く増えたものの、それでも新型コロナウイルス感染症前の８割に留まった。疾患としては呼吸器が最も多く(614人)、次いで消化器(425人)、一般内科(399人)となっていた。新型コロナウイルス後の咳嗽の継続などでの受診が多くみられた。（一般内科は、倦怠感や不眠など特定の科と分類しにくい愁訴を集めている）

あわせて、皮膚科193人、整形外科141人、泌尿器科36人と内科以外の疾患についても診察を行い、積極的に総合診療医の立場から診療を行い、必要に応じて近隣クリニックなどへの紹介を行っ

た。

内科の受診者数のうち、発熱外来は919人、トラベル科は314人の受診がみられた。トラベル科は前年度187人の受診であり、海外渡航が活発化したことが見て取れた。また、当時は渡航前・飛行機搭乗前および実習前など新型コロナウイルスの陰性証明が必要であるケースが多く、入試業務前もスクリーニングを行っていたことから、陰性証明目的に抗原定量検査が860件行われた。市中よりも安価で、数時間で結果を返却できることが好評であったと考えられた。（これらは検査のみなので下記統計には含まれない）

駒場地区

駒場地区では新型コロナウィルス感染症の流行が続く中、内科診療受診者延べ総数は 2,012 名（前年度 1, 517 名）とやや増加した。その内、学生延べ 1,353 名（67.2%）、職員延べ 659 名（32.8%)で、昨年の学生延べ 1,028 名(67.8%)、職員延べ 489 名(32.2%)と学生の比率が少し増加したが、全体および学生の受診者数は年度末に新型コロナ感染症が出現し始めた令和 1 年度（延べ総数 3,924 名、学生 3,223 名(82%)、職員 701 名(18%))の半数程度にとどまった。新型コロナウィルス感染症対策のための前期教養の学生へのオンライン授業は一部続き、クラブ・サークルの活動制限も残っていたため、入校者数はまだ抑えられていたことが影響していると考えられる。また、留学生の受診者数は 359 名と昨年の 264 名よりは増加したが、令和 1 年の 554 名にはまだ及ばなかった。同感染症の影響による留学生数の減少が続いていることが影響した。

受診者の疾患別内訳は気管支炎・喘息など呼吸器疾患が約 12.2%(昨年 11.2%)と昨年同様最も多く、下痢・嘔吐など消化器疾患の約 9.3%(昨年 9.2%)と続いた。例年突出して最多だった風邪症候群は 4.7%で、昨年同様の低さだった。受診者は内科各領域に渡り、内科各分野の専門性を生かした診療が提供された。

トラベルクリニックの受診者数は昨年の 23 名に対して 54 名と回復傾向であるが、令和 1 年度の 165 名には及ばない数であった。内訳は学生 45 名（ 前年 18 名、令和 1 年 154 名）に対して職員は 9 名（前年 5 名、令和 1 年年 11 名）であり学生は回復途上だった。大学主催の体験プログラムおよび留学の再開は限定的であるため、受診者の増加は鈍かった。

発熱外来では新型コロナウィルスの検査として全自動化学発光酵素免疫測定システム（ルミパルス®）による抗原定量検査を、診療および陰性証明書の発行に際するスクリーニングなどのために行った。駒場地区で施行したコロナ関連検査は抗原定量検査（ルミパルス®）601 件、外注による PCR 検査が 11 件であった。

駒場保健センターは以前より新入生等若年者および PEAK(Programs in English at Komaba)学生はじめ、日本語を母国語としない留学生および教職員から頼りにされてきたが、新型コロナ感染症下では特に英語診療を要する利用者への重要度が増した。特に、近隣の駒場ロッジに住む留学生にとって、公共の交通機関を用いず徒歩にてアクセス可能なこともあり、発熱外来が重要な役割を果たした。

柏地区

令和 4 年度（2022 年度）の内科の診療体制は前年度と同様、平日午前・午後にそれぞれ内科医 1 名が診療を担当し、内科の各領域の専門の医師が一般内科診療およびそれぞれの専門を生かした診療を行っている。

令和 4 年度（2022 年度）の総受診者数は 508 名と、令和 3 年度（2021 年度）より 55 名増加した。新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う入構制限が緩和され、授業も対面形式の割合が増えてキャンパスに学生・教職員が戻ってきたことが受診者数増加に寄与したと考えられる。また、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症に関する水際対策が緩和されたことから、留学生の受診者数は 127 名と令和 3 年度（2021 年度）より 37 名増加した。

なお、新型コロナウイルス感染症への対応として、実習や出張に行くための新型コロナウイルスの陰性証明の検査を42件、診療の一環として有症状者や濃厚接触者への検査を5件実施した。

また、通常の診療以外に、11 月には希望者 469 名にインフルエンザワクチン接種を実施した。予約制導入 10 年目であり、よりスムーズなワクチン接種を行うことが可能となっている。

保健センターでは、診療や健康相談、応急処置を行うとともに、状況によっては外部の医療機関の紹介も行っており、学生・教職員にとっては健康増進のための場として利便性が高いと思われる。加えて、留学生および外国人研究員で特に日本語が不自由な場合は、一般医療機関の利用に対して制度的にも不案内であったり、言葉の問題などで不安を覚えたりしているケースも多くあり、留学生および外国人研究員の需要は年々増している。

令和 5 年度（2023 年度）以降も新型コロナウイルス感染症の流行が懸念されるが、すべての利用者に対してキャンパス内でプライマリ・ケアを提供する保健センターの役割と責務を引き続き十分に果たしていくことが求められている。

2.精神科

1） 利用者数の推移

令和 3 年度の緊急事態宣言解除後、大学の活動制限も変更となり、保健センター精神科受診者数は回復傾向となっていた。令和 4 年度も同様の受診動向が維持され、利用者数は前年並みとなった。引き続き利用者の新型コロナウイルス感染も見られたため、必要に応じて電話診察も行った。

2） 診断の分布

診断は国際疾病分類（ICD-10）を用いて分類した。例年通り神経症圏の診断が最も多く、気分障害圏、睡眠障害が続いた。診断なし、ないし、相談の範疇にとどまる者が、あわせて約 15%をしめていた。精神疾患の診断基準には該当しないものの、精神科での相談の需要が高まっていることが示唆される。その他、神経発達症（広汎性発達障害、ADHD）の診断も一定数を占め、学内他の相談室、支援者と連携して学生生活支援につなげている。

3） 本郷地区での教職員精神科外来

本郷キャンパスに教職員が自身のメンタルヘルスについて診療を受けることができる外来を開設し、心理士によるカウンセリングも行っている。このほか、本郷・駒場・柏キャンパスにおいて、教職員からの相談（例えば指導する学生のメンタルヘルスに関する相談）を受け付けている。

3. 歯科

1） 本郷地区

(1) 受診者

2022 年度の本郷地区の受診者総数（実人数）は、学生 485 名、教職員 190 名、合計 675 名で、前年度比 144.5%に増加した。月別受診数を表イに示す。学生受診者の内訳は、学部生 116 名（学生全体の 23.9%で前年度比 128.9%、大学院生 160 名（学生全体の 33.0%で前年度比 142.9%)、留学生 209 名（学生全体の 43.1%で前年度比 157.1%）であった。また、初診合計は 387 名、再診合計は 288 名だった。

全体の受診者数が前年度比で 40%以上増加した理由としては、8 月中旬から口腔外バキュームが設置され、歯石除去やレジン充填などの高エアロゾル産生処置が可能となったこと、新型コロナウイルスによる影響がある程度落ち着いて、歯科受診に対する抵抗感が薄れたこと、などが考えられる。

表イ　月別受診者数（実人数）本郷地区

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
学部生	11	6	10	6	3	8	10	15	10	10	14	13	116
大学院生	10	12	15	11	12	17	16	14	13	10	14	16	160
留学生	8	6	10	5	21	26	28	23	16	20	22	24	209
教職員	4	8	7	10	9	21	23	33	13	20	29	13	190
合計	33	32	42	32	45	72	77	85	52	60	79	66	675

(2) 診療内容

診療内容について、表ロに示す。一般診療については、歯周処置が最も多く 741 名（全体の 45.1%)、続いて歯科検診 629 名（全体の 38.3%)、口腔相談 183 名（全体の 11.1%、うち矯正相談が 15 名、顎関節についての相談が 15 名)、歯牙硬組織処置が 27 名（全体の 1.6%）の順であった。今年度は新型コロナウイルス対策で口腔外バキュームを設置したことによって、高エアロゾル産生処置である歯石除去やレジン充填が可能となり、それに伴い、昨年度は最も多かった歯科検診数を今年度は歯周処置数が上回ることとなった。大学病院への紹介は 95 名、また、中等度から重度のむし歯治療などの依頼で開業医へ紹介したのは 5 名であった。なお、酸などの取扱職員に対する歯科特殊健診の受診者は 44 名であったが、コロナウイルス対策として、こちらから受診日相談目的の電話連絡を行い、受診者が特定の日時に集中しないよう配慮した。

表ロ　治療の内訳（延べ人数）本郷地区

		学部生		大学院生		留学生		教職員		計		総計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
歯科検診		89	27	124	36	129	80	88	56	430	199	629
歯牙硬組織処置	レジン充填	2	0	0	0	3	1	3	0	8	1	9
	その他	3	0	2	0	1	0	10	2	16	2	18
歯周処置	歯石除去	94	21	154	44	153	99	118	50	519	214	733
	その他	3	0	1	0	0	3	0	1	4	4	8
口腔外科領域処置		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
口腔相談	矯正相談	4	6	2	0	1	0	0	2	7	8	15
	顎関節相談	3	1	3	3	1	2	0	2	7	8	15
	その他	27	6	27	7	27	25	21	13	102	51	153
ブラッシング指導		3	1	3	0	2	1	0	0	8	2	10
経過観察		0	0	1	0	1	1	3	1	5	2	7
歯牙酸蝕症検診		0	0	0	0	0	0	32	12	32	12	44
精密検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		228	62	317	90	318	212	276	139	1,139	503	1,642
他院紹介	大学病院	14	5	16	3	23	18	13	3	66	29	95
	近歯科医院	0	1	1	0	0	2	1	0	2	3	5
計		14	6	17	3	23	20	14	3	68	32	100

2）　駒場地区

（1）　受診者

2022 年度の受診者総数（実人数）は、学生 96 名、教職員 19 名、合計 115 名で、前年度比 130.7%に増加した。月別受診数を表ハに示す。学生における受診者の内訳は、学部生 38 名（学生受診者全体の 39.6%で前年度比 152%、大学院生 21 名（学生受診者全体の 21.9%で前年度比 175%）、留学生 37 名（学生受診者全体の 38.5%で前年度比 116%）で、各群で前年度に比べて受診者数が大きく増加した。本郷地区同様、受診者数が増加した理由としては、新型コロナウイルスの影響が若干薄れたことが主な原因であると考えられる。初診合計は 91 名、再診合計は 24 名であった。

表ハ　月別受診者数（実人数）駒場地区

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生	2	2	7	4	2	4	0	4	0	1	3	9	38
大学院生	1	2	3	0	0	2	2	0	1	3	3	4	21
留学生	2	4	4	4	1	1	3	1	2	7	4	4	37
教職員	1	4	1	2	1	2	2	1	3	1	1	0	19
合計	6	12	15	10	4	9	7	6	6	12	11	17	115

(2)　診療内容

診療内容を表ニに示す。一般診療については、歯科検診が最も多く 121 名（全体の 53.5%）、ついで口腔相談 44 名（全体の 19.5%）、歯周処置と歯牙硬組織処置が各 2 名（全体の 0.9%）で、例年同様、歯科検診の比率が高かった。駒場保健センター歯科には口腔外バキュームが設置されていないため、新型コロナウイルス対策として高エアロゾル産生処置である歯石除去やレジン充填は引き続き見合わせている。大学病院口腔外科への紹介は 19 名に対しておこなわれたが、開業歯科医院への紹介はなかった。

酸などの取扱職員に対する歯科特殊健診の受診者は 57 名であったが、コロナウイルス対策として、こちらから受診日相談目的の電話連絡を行い、受診者が特定の日時に集中しないよう配慮した。

表ニ　治療の内訳（延べ人数）駒場地区

		学部生		大学院生		留学生		教職員		計		総計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
歯科検診		30	13	11	11	21	16	14	5	76	45	121
歯牙硬組織処置	レジン充填	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2
歯周処置	歯石除去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	2
口腔外科領域処置		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔相談	矯正相談	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2
	顎関節相談	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2
	その他	10	2	3	6	7	7	4	1	24	16	40
ブラッシング指導		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経過観察		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯牙酸蝕症検診		0	0	0	0	0	0	48	9	48	9	57
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		41	15	15	18	30	24	67	16	153	73	226
他院紹介	大学病院	4	0	1	3	4	4	1	2	10	9	19
	近歯科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		4	0	1	3	4	4	1	2	10	9	19

3）　問題点と今後のあり方

保健・健康推進本部歯科では、プライマリ・ケアに重点をおいている。すなわち、口腔保健意識の向上を図り予防技術を習得して頂くこと、口腔疾患の治療に対する適切な助言を行うこと、また初期治療（保存修復処置、歯周処置）、急発症状に対する除痛処置を主体としている。現在、常勤歯科医師・歯科衛生士に加えて非常勤歯科医師も在籍しているため、口腔外科・歯周病・矯正歯科など、各分野に対して、専門性の高い対応が可能となっている。しかし、設備や器材の関係から、難易度の高い治療や長期にわたる治療、精密な検査が必要とされる場合など、当科で対応できない治療内容に関しては、本学医学部附属病院やその他の大学病院、開業医等、外部の医療機関へ適切な紹介を行っている。2022 年度の保健センター歯科に対する新型コロナウイルスの影響は、前年度に比べて、さらに少なくなり、受診者数は大きく増加した。また、本郷地区では口腔外バキュームが設置されたことにより、歯石除去やレジン充填を再開することが出来た。なお、2023 年 1 月から、歯科予約は特殊健診も含めて全て WEB 予約システムに変更し、利用者から好評を得ている。今後も利用者の利便性を第一に考えた運営に努めたいと考えている。

4. 耳鼻咽喉科

保健･健康推進本部 耳鼻咽喉科ではオージオメーター、ティンパノメトリー、耳鼻咽喉科内視鏡、フレンツェル眼鏡を有しており、耳鼻咽喉科疾患全般に対する基本的・最低限の診断・治療を実施している。

疾患の内訳としては、アレルギー性鼻炎と外耳疾患（耳垢栓塞と外耳炎）が多くを占める。前者については春と秋に患者が増加する。後者については、昨今のスマートデバイスの普及による音漏れ防止型イヤホンを使用する頻度が増加したためと考えられる。本センターで実施不能な検査・治療が必要な場合には医学部付属病院をはじめとした保健診療施設への紹介を行っている。

令和4年度の動向

令和４年度に保健・健康推進本部耳鼻咽喉科を訪れた学生、職員の総数は692名であり、前年度(622名)より増加した。一昨年の288名から回復基調が続いているが、令和元年度（1,661名）の水準には及ばず、COVID-19の大学活動への影響はいまだ大きいと言える。

10月1日をもって鴨頭輝助教が医学部附属病院へ異動し、後任として東京逓信病院から小川慶が赴任した。小川のサブスペシャリティである鼻疾患については、医学部附属病院耳鼻咽喉科鼻専門外来へ紹介の上で小川が診断・治療を行うことが増えている。

医学部附属病院耳鼻咽喉科初診外来の予約待機時間が長くなっているため、本郷キャンパスの職員・学生は東京逓信病院へ、駒場キャンパスの職員・学生は（小川が以前勤務していた）JR東京総合病院へ紹介することが増えてきた。

今後も職員・学生の希望も踏まえ、最良と思われる施設への紹介を行う予定である。

表１　　耳鼻科月別受診者数(R4)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	45	10	35	27	20	35	39	32	50	41	58	37	429
うち留学生	10	8	13	10	9	13	18	13	13	23	11	7	148
職員	16	14	14	12	15	26	15	19	21	28	48	35	263
うち病院職員	2	1	0	3	0	1	0	1	2	2	4	2	18
合計	61	24	49	39	35	61	54	51	71	69	106	72	692

表２　　施行した検査等の内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ファイバー	3	2	3	3	1	4	16	17	18	7	7	2	83
聴力検査	17	8	14	11	5	10	7	11	9	14	16	5	127
ティンパノ	9	4	5	1	1	4	1	8	7	9	9	0	58

平衡機能検査	3	1	2	3	2	2	4	2	1	0	0	2	22
血液検査	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	4
インフルエンザ検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	33	15	24	18	9	20	29	38	35	31	32	10	294

表 3　　疾患別内訳

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
急性咽頭炎	1	2	3	6	4	3	3	4	5	1	5	0	37
感冒	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
アレルギー性鼻炎	14	6	6	1	6	5	12	5	6	4	22	27	114
紹介状(発行数)	5	1	6	9	2	5	7	11	8	9	18	27	108
合計	20	9	15	16	12	14	22	20	19	15	45	54	261

5. 整形外科

身体運動・健康科学実習、スポーツ身体運動実習（体育実技）におけるスポーツ外傷

本学では体育実技が身体運動・健康科学実習として１年生必修の基礎科目とされ、スポーツ・身体運動実習として２年生の総合科目の中の選択科目とされている。令和４年度も前年に続き新型コロナ感染症流行下、体育の授業は開催された。体育実技中になんらかの外傷を受傷して当センターを訪れた学生の総数は 52 名と、前年度の 45 名より僅かに増加し、新型コロナ感染症の影響を受ける以前の中でも高めの水準であった。そのうち、医師診察を要した者は 18 人で、残りは保健センター内でクーリングなど応急処置を受け、必要時は外部整形外科に適切に搬送された。

表Ａに令和４年度の体育実技中の受傷者の受傷種目と受傷の内容を示した。脱臼・骨折の重症者の発生はなかった。担当教員の安全指導の成果と思われ、今後もこの傾向が続くことを望むものである。

表Ａ　身体運動実習時の外傷の種類と種目

		サッカー	バレーボール	ソフトボール	バスケットボール	ハンドボール	テニス	バドミントン	フィットネス	卓球	ゴルフ	陸上	サイエンス	ダンス	コーディネーション	メディカルケア	エアロ・エクササイズ	合計	
突き指		0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
捻挫	手関節	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	足関節	2	3	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	19
	その他	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
打撲	顔面・頭部	2	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	7	
	上肢	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11
	下肢	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
擦過傷		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
切挫傷		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	
脱臼		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
骨折		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
靭帯損傷		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
筋肉痛		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
腰痛		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
眼鏡コンタクトによる外傷		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
爪損傷		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
その他		0	2	4	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	11	
合計		8	9	10	6	5	1	3	4	2	0	0	4	0	0	0	0	52	

表1　受診者数（月別、身分別）

身分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	9	10	7	12	2	5	7	13	4	7	6	4	86
教職員	2	1	0	0	4	3	2	3	0	1	3	1	20
合計	11	11	7	12	6	8	9	16	4	8	9	5	106

＊留学生は学生に含まれる

＊2021年度より内訳（初・再診）なし

表2 留学生受診者（実人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	5	1	2	1	1	2	1	7	3	3	4	2	32

表3　病名分類別内訳（延人数）＊延人数とは診断名の数の合計である

病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
その他（疾患）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
肩痛	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
腰痛症	0	0	1	0	0	0	0	2	1	2	2	1	9
筋肉痛	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
関節痛（四肢）	2	2	3	7	0	2	4	8	1	2	3	0	34
背部痛	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
頚部痛	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	7
末梢神経障害・麻痺	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
肉離れ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
疲労骨折	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頸椎椎間板ヘルニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変形性頚椎症	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
肩関節周囲炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肩関節捻挫・鍵盤損傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変形性関節症（上肢）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上肢骨折・脱臼（鎖骨含）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
上肢腱鞘炎	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2

捻挫（上肢）	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
肋骨骨折・肋軟骨損傷	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
腰椎椎間板ヘルニア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
変形性腰椎症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
半月板損傷	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
膝靭帯損傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変形性関節症（下肢）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
下肢骨折・脱臼	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
筋膜付着部炎（下肢）	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	4
捻挫（下肢）	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	6
アキレス腱断裂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・事故（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
切創・擦過傷（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（頭部）（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（体幹）（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（四肢）（学内）	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
外傷・事故（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
切創・擦過傷（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（頭部）（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（体幹）（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（四肢）（学外）	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
その他	0	0	0	1	2	2	1	1	0	1	1	0	9
結果説明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	11	10	7	13	5	6	8	18	3	10	12	4	107

＊2021 年度より病名分類変更

表 4　身体運動実習中の外傷のうち駒場保健センターを受診した患者の診療科別人数

診療科	人数
整形外科	4
内科	14
受診者総数	18

6. 皮膚科

駒場地区

表 1 受診者数内訳

身分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
学生	4	4	4	3	2	6	3	7	2	3	3	6	47
教職員	1	4	2	2	0	2	1	2	0	0	1	1	16
合計	5	8	6	5	2	8	4	9	2	3	4	7	63

＊留学生は学生に含まれる
＊2021 年度より内訳（初・再診）なし

表 2 留学生受診者（実人数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
留学生	3	3	3	2	0	3	2	2	1	3	0	6	28

表 3 病名分類別内訳（延人数）

病名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
皮膚科	0	6	2	5	2	6	2	4	0	3	1	1	32
湿疹	1	1	1	2	0	2	2	3	1	1	4	4	22
ざそう	1	1	2	1	0	0	1	1	1	1	0	2	11
熱傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚感染症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
虫刺され	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口唇ヘルペス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帯状疱疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アトピー性皮膚炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蕁麻疹	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
陥入爪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
結果説明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	8	5	8	3	9	5	8	2	5	5	8	69

＊2021 年度より病名分類変更

7.薬局

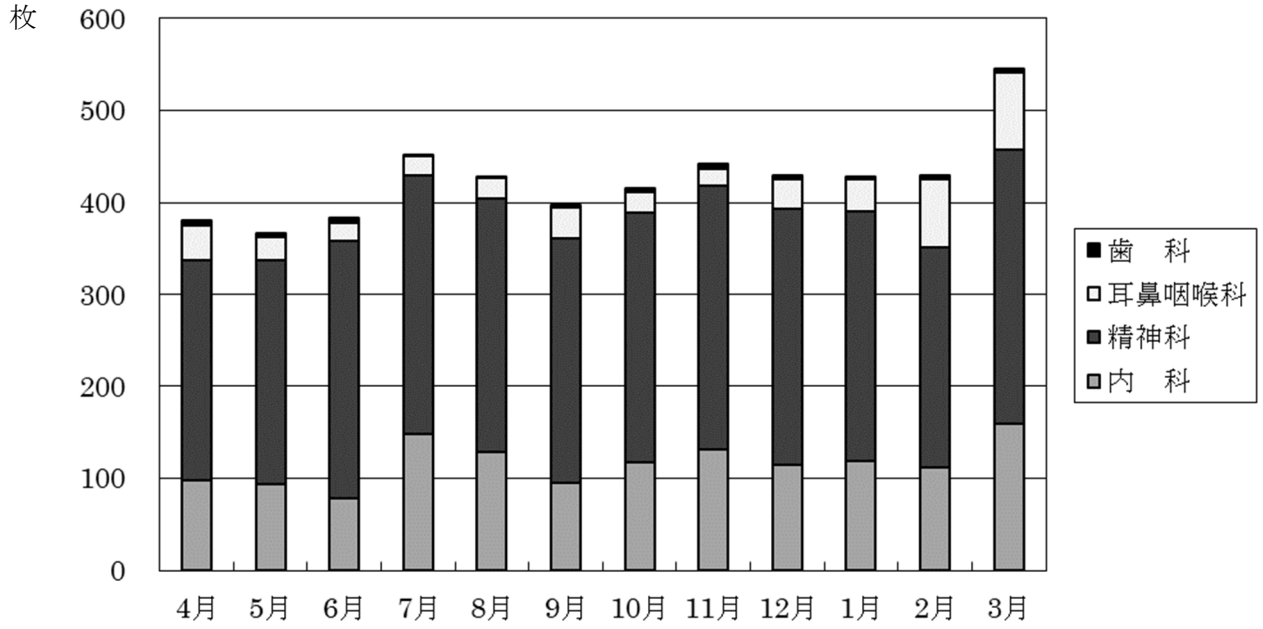
1）本郷地区利用状況

令和 4 年度の処方箋枚数は 5,097 であった。その内訳を下記に示す。昨年度の処方箋枚数は 4,852 で、今年度 245 増加した。

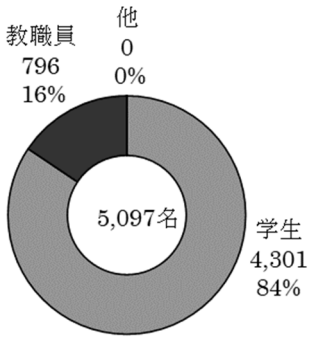
処方箋枚数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
内　科	98	94	78	148	129	95	117	132	114	119	112	159	1,395
精神科	240	243	280	281	275	267	272	286	280	271	239	299	3,233
耳鼻咽喉科	37	26	20	21	23	33	23	18	31	36	75	83	426
歯　科	6	4	5	1	1	3	4	6	4	2	3	4	43
合　計	381	367	383	451	428	398	416	442	429	428	429	545	5,097

月別処方箋枚数



与薬者の内訳



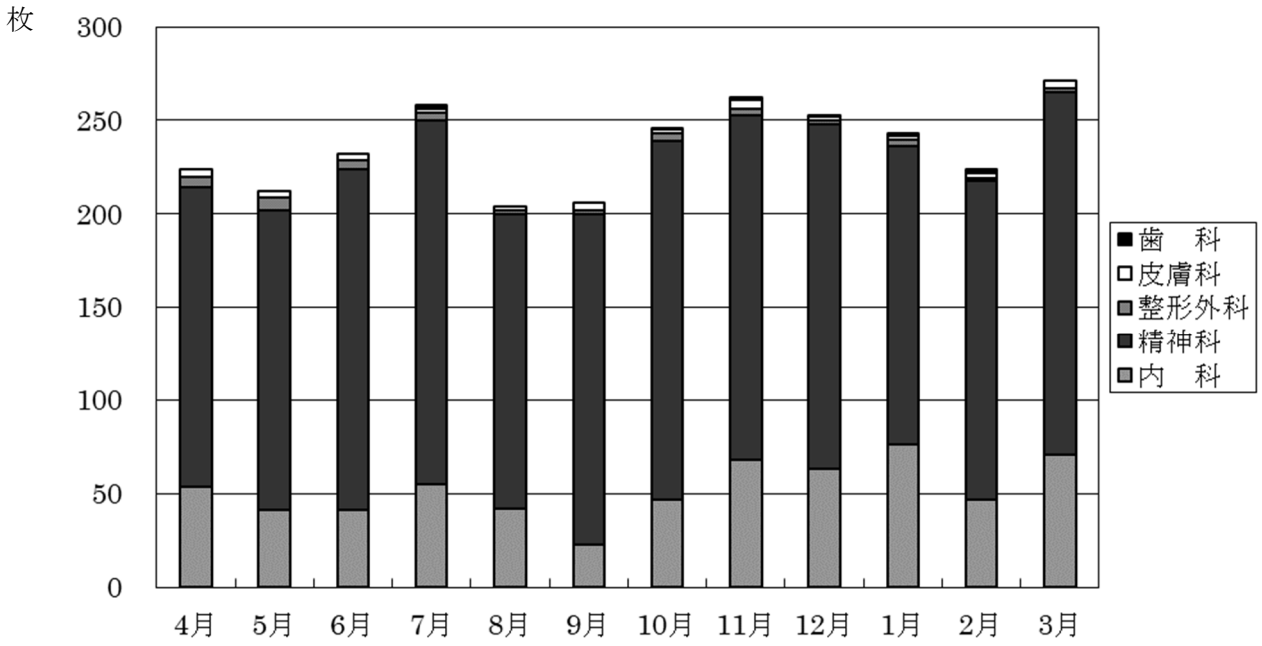
2)駒場地区利用状況

令和 4 年度の処方箋枚数は 2,835 であった。その内訳を下記に示す。昨年度の処方箋枚数は 2,454 で、今年度 381 増加した。

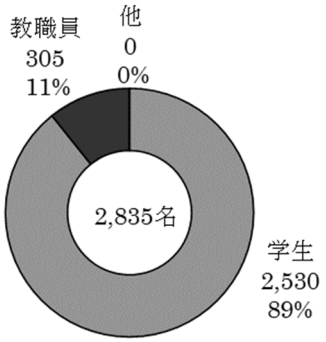
処方箋枚数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
内　科	54	41	41	55	42	23	47	68	63	76	47	71	628
精神科	160	161	183	195	158	177	192	185	185	160	171	194	2,121
整形外科	6	7	5	4	2	2	4	3	2	4	1	2	42
皮膚科	4	3	3	2	2	4	2	5	2	2	3	4	36
歯　科	0	0	0	2	0	0	1	1	1	1	2	0	8
合　計	224	212	232	258	204	206	246	262	253	243	224	271	2,835

月別処方箋枚数



与薬者の内訳



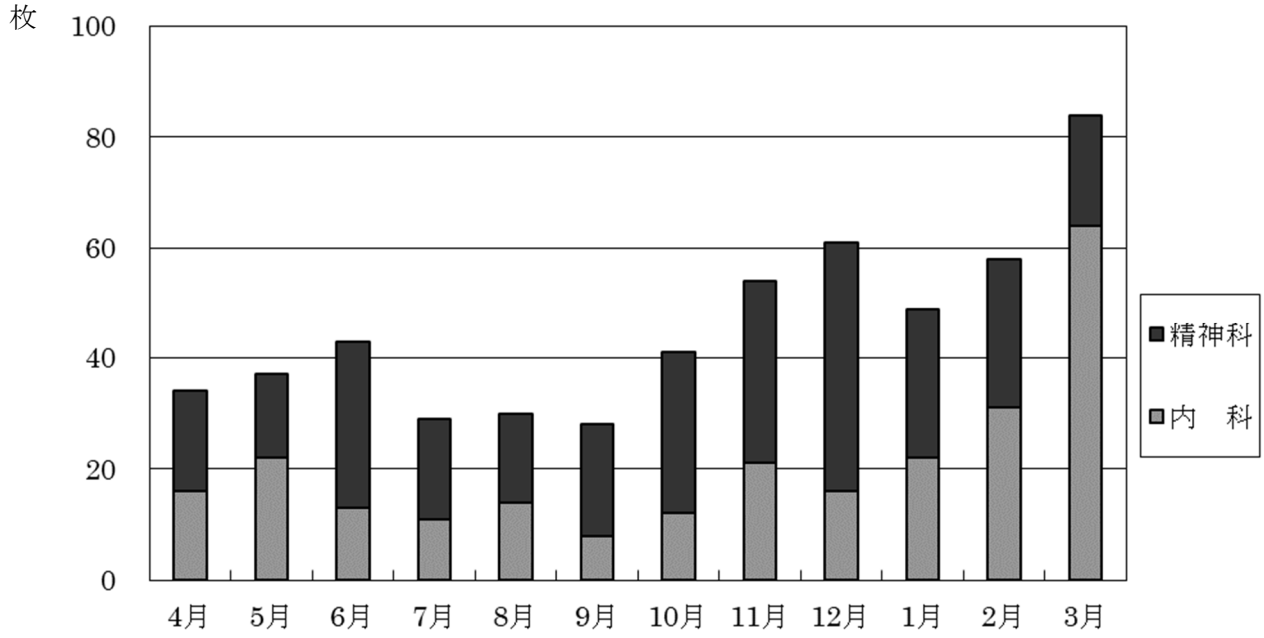
3)柏地区利用状況

令和 4 年度の処方箋枚数は 548 であった。その内訳を下記に示す。昨年度の処方箋枚数は 679 で、今年度 131 減少した。

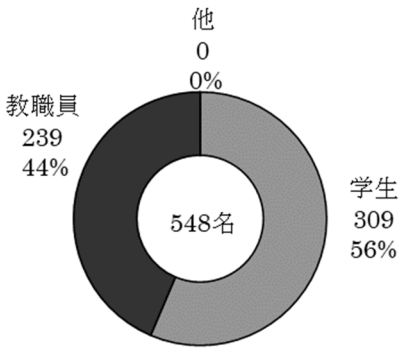
処方箋枚数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
内　科	16	22	13	11	14	8	12	21	16	22	31	64	250
精神科	18	15	30	18	16	20	29	33	45	27	27	20	298
合　計	34	37	43	29	30	28	41	54	61	49	58	84	548

月別処方箋枚数



与薬者の内訳



4)その他

本部採用医薬品は薬剤管理委員会で審議して決定している。令和 4 年度は、新規採用申請が 8 品目（内用薬 3、外用薬 2、注射薬 1、体外診断用医薬品 2）あり、審議の結果 8 品目が採用された。一方、採用医薬品の見直しや使用実績の低い医薬品の採用継続について審議を行い、10 品目（内用薬 6、外用薬 2、消毒薬 1、体外診断用医薬品 1）の採用を中止した。

8. ヘルスケアルーム(駒場地区)

本学の学生及び教職員の健康増進と福利厚生並びに障害者の雇用促進の為、2006 年 5 月 15
日ヘルスケアルームを設置し視覚障害者であるヘルスキーパー(あん摩マッサージ指圧師免許取得者）によるマッサージを実施している。

【利用方法】

・15 分の施術で 1 回 500 円、令和 4 年 9 月より、15 分の施術で 1 回 500 円または 40 分の施術で 1 回 1,000 円の選択制とする。
・事前に電話かヘルスキーパー室で予約をする。
・利用前に駒場地区事務室に身分証（学生証・職員証等）を提示し、施術料を支払う。
・支払い時に配布される番号札をマッサージ師に渡してマッサージを受ける。

C. 検査部門

1. 放射線室

（本郷地区）

令和 4 年度の撮影人数は 20,484 人、撮影・処理件数 20.670 件、撮影枚数 20,493 枚であった。

（駒場地区）

令和 4 年度の撮影人数 8,424 人、撮影・処理件数 8,536 件、撮影枚数は 8,557 枚であった。

2. 検査室

（本郷地区）

尿検査数（令和 4 年度）

	件数
診療科	247
合計	247

聴力精密検査数

	件数
耳鼻科	197
合計	197

心電図検査数

	件数
診療科	223
その他（健診等）	0
合計	223

呼吸機能検査数

	件数
診療科	0
その他（健診等）	0
合計	0

採血者数

	件数
診療科	796
その他（健診等）	0
合計	796

新型コロナウイルス抗原定量検査

	件数
診療科	584
検査のみ	1,366
合計	1,950

（駒場地区）

尿検査数（令和 4 年度）

	件数
診療科	53
合計	53

呼吸機能検査数

	件数
診療科	0
その他(健診等)	0
合計	0

心電図検査数

	件数
診療科	75
その他（健診等）	3
合計	78

新型コロナウイルス抗原定量検査

	件数
診療科	175
検査のみ	426
合計	601

採血者数

	件数
診療科	242
その他(健診等)	4
合計	246

Ⅳ　研究活動

A.研究業績

B.外部資金等

A.研究業績

１）英文原著

・Kato H, Okawa R, Ogasawara T, Hoshino Y, Hidaka N, Koga M, Kinoshita Y, Kobayashi H, Taniguchi Y, Fukumoto S, Nangaku M, Makita N, Hoshi K, Nakano K, Ito N. Effect of conventional treatment on dental complications and ectopic ossifications among 30 adults with XLH. J Clin Endocrinol Metab. 2023; 108(6):1405-14.

・Hatori A, Fujii Y, Kawase-Koga Y, Ogasawara T, Chikira J, Minami S, Yamakawa D, Chikazu D. VCAM-1 and GFPT-2: Predictive markers of osteoblast differentiation in human dental pulp stem cells. Bone. 2023 :116575.

・Fujii Y, Hatori A, Chikazu D, Ogasawara T.　Application of Dental Pulp Stem Cells for Bone and Neural Tissue Regeneration in Oral and Maxillofacial Region. Stem Cells Int. 2023:2026572.

・Hoshi K, Ikebe T, Ota Y, Kishimoto H, Kurata T, Kurita H, Sakamaki K, Takenobu T, Harada S, Ogasawara T, Tei K, Kirita T. Guide for surgical procedures in oral and maxillofacial areas during coronavirus disease 2019 pandemic. J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2022 ;34(3):294-314.

・Jubishi D, Okamoto K, Hamada K, Ishii T, Hashimoto H, Shinohara T, Yamashita M, Wakimoto Y, Otani A, Hisasue N, Ikeda M, Harada S, Okugawa S, Moriya K, Yanagimoto S.

The association between adverse reactions and immune response against SARS-CoV-2 spike protein after vaccination with BNT162b2 among healthcare workers in a single healthcare system: a prospective observational cohort study
Hum Vaccin Immunother. 2022 Nov 30;18(5):2048559.

・Miyakawa K, Miyashita N, Horie M, Terasaki Y, Tanaka H, Urushiyama H, Fukuda K, Okabe Y, Ishii T, Kuwahara N, Suzuki HI, Nagase T, Saito A.
ASCL1 regulates super-enhancer-associated miRNAs to define molecular subtypes of small cell lung cancer
Cancer Sci. 2022 Nov;113(11):3932-3946.

・Kado A, Inoue Y, Moriya K, Tsutsumi T, Ikeuchi K, Okushin K, Yotsuyanagi H, Koike K, Fujishiro M: Triglyceride level and soft drink consumption predict nonalcoholic fatty liver disease in non-obese adolescent males. Hepatol Res. 2023; 53; 497-510.

・ Hiraike Y*. Chromatin immunoprecipitation with mouse adipocytes using

hypotonic buffer to enrich nuclear fraction before fixation. ***STAR Protocols*** 2023; 4(1): 102093.

* Corresponding author

・Global Burden of Disease 2021 Health Financing Collaborator Network. Global investments in pandemic preparedness and COVID-19: development assistance and domestic spending on health between 1990 and 2026. ***The Lancet Global Health*** 2023; 11(3): e385-e413.

・Adachi Y, Ueda K, Nomura S, Ito K, Katoh M, Katagiri M, Yamada S, Hashimoto M, Zahi B, Numata G, Otani A, Hinata M, Hiraike Y, Waki H, Takeda N, Morita H, Ushiku T, Yamauchi T, Takimoto E and Komuro I. Beiging of perivascular adipose tissue regulates its inflammation and vascular remodeling. ***Nature Communications*** 2022; 13(1): 5117.

・GBD 2019 Cancer Risk Factors Collaborators. The global burden of cancer attributable to risk factors, 2010-19: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2019. ***The Lancet*** 2022; 400(10352): 563-591.

・Hiraike Y*, Tsutsumi S, Wada T, Oguchi M, Saito K, Nakamura M, Ota S, Koebis M, Nakao H, Aibta A, Nagano G, Ohno H, Oki K, Yoneda M, Kadowaki T, Aburatani H, Waki H and Yamauchi T. NFIA determines the *cis*-effect of genetic variation on Ucp1 expression in murine thermogenic adipocytes. ***iScience*** 2022; 25(8): 104729.

* Corresponding author

・GBD 2019 Adolescent Transport and Unintentional Injuries Collaborators. Adolescent transport and unintentional injuries: a systematic analysis using the Global Burden of Disease Study 2019. ***The Lancet Public Health*** 2022; 7(8): e657-e669.

・Tanaka M, Takase S, Ishiura H, Yamauchi T, Okazaki S, Okazaki H. A novel homozygous nonsense variant of LMF1 in pregnancy-induced hypertriglyceridemia with acute pancreatitis. *J Clin Lipidol.* 2023;17(3):327-331.

・Fukasawa T, Toyama S, Enomoto A, Yoshizaki-Ogawa A, Norimatsu Y, **Tateishi S,** Kanda H, Miyagawa K, Sato S, Yoshizaki A : Utility of nailfold capillary assessment for predicting psoriatic arthritis based on a prospective observational cohort study. Rheumatology (Oxford). 2022 Nov 28: keac664.

・**Yao A**, Inuzuka R, Mizuno A, Iwano H, Tatebe S, Tsukamoto Y, Sakamoto I, Watanabe H, Fukuda N, Takechi F, et al. Status of adult outpatients with congenital heart disease in Japan: The Japanese Network of Cardiovascular Departments for Adult Congenital Heart Disease Registry. *J Cardiol.* 2022;80:525-531. doi:

10.1016/j.jjcc.2022.07.019

・Umei M, Saito A, Soma K, Inaba T, Uehara M, Komuro I, **Yao A**. Clinical Outcome of Closure of a Small Atrial Septal Defect in a Patient with Pulmonary Arterial Hypertension. *Intern Med*. 2022;61:851-855. doi: 10.2169/internalmedicine.7888-21

・Takaya Y, Akagi T, Sakamoto I, Kanazawa H, Nakazawa G, Murakami T, **Yao A,** Nanasato M, Saji M, Hirokami M, et al. Efficacy of treat-and-repair strategy for atrial septal defect with pulmonary arterial hypertension. *Heart*. 2022;108:382-387. doi: 10.1136/heartjnl-2021-319096

・Ohuchi H, Kawata M, Uemura H, Akagi T, **Yao A**, Senzaki H, Kasahara S, Ichikawa H, Motoki H, Syoda M, et al. JCS 2022 Guideline on Management and Re-Interventional Therapy in Patients With Congenital Heart Disease Long-Term After Initial Repair. *Circ J*. 2022;86:1591-1690. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0134

・Mitani A, Horie T, Yokoyama R, Nakano Y, Hamada K, Inoue Y, Saito M, Ishii T, Sunohara M, Takahashi R, et al. Interpretations of SARS-CoV-2 IgM and IgG antibody titers in the seroepidemiological study of asymptomatic healthy volunteers. *J Infect Chemother*. 2022;28:266-272. doi: 10.1016/j.jiac.2021.11.020

・Abe M, Mitani A, **Yao A,** Zong L, Zhang CD, Hoshi K, Yanagimoto S. Oral Health in Japan: State-of-the-Art and Perspectives. *Int J Environ Res Public Health*. 2022;19. doi: 10.3390/ijerph19148232

・Abe M, Mitani A, **Yao A**, Hoshi K, Yanagimoto S. Systemic Disorders Closely Associated with Malocclusion in Late Adolescence: A Review and Perspective. *Int J Environ Res Public Health*. 2022;19. doi: 10.3390/ijerph19063401

・Kushima I, Nakatochi M, Aleksic B, Okada T, Kimura H, Kato H, Morikawa M, Inada T, Ishizuka K, Torii Y, Nakamura Y, Tanaka S, Imaeda M, Takahashi N, Yamamoto M, Iwamoto K, Nawa Y, Ogawa N, Iritani S, Hayashi Y, Lo T, Otgonbayar G, Furuta S, Iwata N, Ikeda M, Saito T, Ninomiya K, Okochi T, Hashimoto R, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Miura K, Itokawa M, Arai M, Miyashita M, Toriumi K, Ohi K, Shioiri T, Kitaichi K, Someya T, Watanabe Y, Egawa J, Takahashi T, Suzuki M, Sasaki T, Tochigi M, Nishimura F, Yamasue H, Kuwabara H, Wakuda T, Kato TA, Kanba S, Horikawa H, Usami M, Kodaira M, Watanabe K, Yoshikawa T, Toyota T, Yokoyama S, Munesue T, Kimura R, Funabiki Y, Kosaka H, Jung M, Kasai K, Ikegame T, Jinde S, Numata S, Kinoshita M, Kato T, Kakiuchi C, Yamakawa K, Suzuki T, Hashimoto N, Ishikawa S, Yamagata B, Nio S, Murai T, Son S, Kunii Y, Yabe H, Inagaki M, Goto YI,

Okumura Y, Ito T, Arioka Y, Mori D, Ozaki N: Cross-Disorder Analysis of Genic and Regulatory Copy Number Variations in Bipolar Disorder, Schizophrenia, and Autism Spectrum Disorder. Biol Psychiatry. 2022 Sep 1;92(5):362-374. doi: 10.1016/j.biopsych.2022.04.003.

・Tamiya H, Mitani A, Abe T, Nagase Y, Suzuki H, Jo T, Tanaka G, Nagase T: Association between Inhalation Instruction Method in Community Pharmacies and Inhaler Device Handling Error in Patients with Obstructive Lung Disease: An Evaluation of the Impact of Practical Demonstration by Pharmacists. Biol Pharm Bull. 2022;45:1764-1771.

・Usui K, Kirihara K, Tada M, Fujioka M, Koshiyama D, Tani M, Tsuchiya M, Morita S, Kawakami S, Kanehara A, Morita K, Satomura Y, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K: The association between clinical symptoms and later subjective quality of life in individuals with ultra-high risk for psychosis and recent-onset psychotic disorder: a longitudinal investigation. Psychiatry Clin Neurosci 2022;76(11):552-9.

・Kasai K, Kumagaya S, Takahashi Y, Sawai Y, Uno A, Kumakura Y, Yamagishi M, Kanehara A, Morita K, Tada M, Satomura Y, Okada N, Koike S, Yagishita S: "World-informed" neuroscience for diversity and inclusion: an organizational change in cognitive sciences. Clin EEG Neurosci 2022;54(6):560-6.

・Koike S, Sakakibara E, Satomura Y, Sakurada H, Yamagishi M, Matsuoka J, Okada N, Kasai K: Shared functional impairment in the prefrontal cortex affects symptom severity across psychiatric disorders. Psychol Med 2022;52(13):2661-70.

・Zhu Y, Nakatani H, Yassin W, Maikusa N, Okada N, Kunimatsu A, Abe O, Kuwabara H, Yamasue H, Kasai K, Okanoya K, Koike S: Application of a machine learning algorithm for structural brain images in chronic schizophrenia to earlier clinical stages of psychosis and autism spectrum disorder: a multi-protocol imaging dataset study. Schizophr Bull 2022;48(3):563-74.

・Wada M, Nakajima S, Honda S, Takano M, Taniguchi K, Tsugawa S, Mimura Y, Hattori N, Koike S, Zomorrodi R, Blumberger DM, Daskalakis ZJ, Mimura M, Noda Y: Reduced signal propagation elicited by frontal transcranial magnetic stimulation associated with oligodendrocyte abnormalities in treatment-resistant depression. J Psychiatr Neurosci 2022;47(5):E325-35.

・Nakamura Y, Uematsu A, Okanoya K, Koike S: The effect of acquisition duration on cerebral blood flow-based resting-state functional connectivity. Hum Brain Mapp 2022;43(10):3184-94.

・Wada M, Noda Y, Iwata Y, Tsugawa S, Yoshida K, Tani H, Hirano Y, Koike S, Sasabayashi D, Katayama H, Plitman E, Ohi K, Ueno F, Caravaggio F, Koizumi T,

Gerretsen P, Suzuki T, Uchida H, Müller DJ, Mimura M, Remington G, Grace AA, Graff-Guerrero A, Nakajima S: Dopaminergic dysfunction and excitatory/inhibitory imbalance in treatment-resistant schizophrenia and novel neuromodulatory treatment. Mol Psychiatry 2022;27(7):2950-67.

・Nakamura Y, Takahashi M, Inoue Y, Yanagimoto S, Okanoya K, Koike S: Nutrient infusion evoked magnetic resonance imaging signal in the human hypothalamus. Nutr Neurosci 2022;25(12):2528-35.

・Koike S, Uematsu A, Sasabayashi D, Maikusa N, Takahashi T, Ohi K, Nakajima S, Noda Y, Hirano Y: Recent advances and future directions of brain MRI studies in schizophrenia through the life course: toward elucidating brain pathology and developing clinical tools. Magn Reson Med Sci 2022;21(4):539-52.

・Sone M, Koshiyama D, Zhu Y, Maikusa N, Okada N, Yamasue H, Abe O, Kasai K, Koike S: Structural brain abnormalities in schizophrenia patients with a history and presence of auditory verbal hallucination. Transl Psychiatry 2022;12(1):551.

・Baldwin H, Radua J, Antoniades M, Haas SS, Frangou S, Agartz I, Allen P, Andreassen OA, Atkinson K, Bachman P, Baeza I, Bartholomeusz CF, Chee MWL, Colibazzi T, Cooper RE, Corcoran CM, Cropley VL, Ebdrup BH, Fortea A, Glenthøj LB, Hamilton HK, Haut KM, Hayes RA, He Y, Heekeren K, Kaess M, Kasai K, Katagiri N, Kim M, Kindler J, Klaunig MJ, Koike S, Koppel A, Kristensen TD, Bin Kwak Y, Kwon JS, Lawrie SM, Lebedeva I, Lee J, Lin A, Loewy RL, Mathalon DH, Michel C, Mizrahi R, Møller P, Nelson B, Nemoto T, Nordholm D, Omelchenko MA, Pantelis C, Raghava JM, Røssberg JI, Rössler W, Salisbury DF, Sasabayashi D, Schall U, Smigielski L, Sugranyes G, Suzuki M, Takahashi T, Tamnes CK, Tang J, Theodoridou A, Thomopoulos SI, Tomyshev AS, Uhlhaas PJ, Værnes TG, van Amelsvoort TAMJ, Van Erp TGM, Waltz JA, Westlye LT, Wood SJ, Zhou JH, McGuire P, Thompson PM, Jalbrzikowski M, Hernaus D, Fusar-Poli P; ENIGMA Clinical High Risk for Psychosis Working Group: Neuroanatomical heterogeneity and homogeneity in people at clinical high risk for psychosis. Transl Psychiatry 2022;12(1):297.

・Law WH, Yoshino S, Fong CY, Koike S: Younger adults tolerate more relational risks in everyday life as revealed by the General Risk-Taking Questionnaire. Sci Rep 2022;12(1):12184.

・Suzuki K, Yamasaki S, Miyashita M, Ando S, Toriumi K, Yoshikawa A, Nakanishi M, Morimoto Y, Kanata S, Fujikawa S, Endo K, Koike S, Usami S, Itokawa M, Washizuka S, Hiraiwa-Hasegawa M, Meltzer HY, Kasai K, Nishida A, Arai M: Role of advanced glycation end products in the longitudinal association between muscular strength and psychotic symptoms among adolescents. Schizophrenia 2022;8(1):44.

・Yamagishi M, Satomura Y, Sakurada H, Kanehara A, Sakakibara E, Okada N, Koike S, Yagishita S, Ichihashi K, Kondo S, Jinde S, Fukuda M, Kasai K: Retrospective chart review-based assessment scale for adverse childhood events and experiences. Psychiatry Clin Neurosci Reports 2022;1(4):e58.
・Kanehara A, Morishima R, Takahashi Y, Koike H, Usui K, Sato S, Uno A, Sawai Y, Kumakura Y, Yagishita S, Usami S, Morita M, Morita K, Kanata S, Okada N, Yamasaki S, Nishida A, Ando S, Koike S, Shibuya T, Joseph S, Kasai K: Young carers in Japan: Reliability and validity testing of the BBC/University of Nottingham young carers survey questionnaire and prevalence estimation in 5,000 adolescents. Psychiatry Clin Neurosci Reports 2022;1(3):e46.
・Kasai K, Yagishita S, Tanaka S, Koike S, Murai T, Nishida A, Yamasaki S, Ando S, Kawakami N, Kanehara A, Morita K, Kumakura Y, Takahashi Y, Sawai Y, Uno A, Sakakibara E, Okada N, Okamoto Y, Nochi M, Kumagaya S, Fukuda M: Personalized values in life as point of interaction with the world: developmental/neurobehavioral basis and implications for psychiatry. Psychiatry Clin Neurosci Reports 2022;1(2):e12.

２）邦文原著

・小笠原　徹、 星　和人　新型コロナウイルス(COVID-19)対策の現状とこれから　口腔外科治療における新型コロナウイルス感染症対策　日本口腔外科学会雑誌　68 巻 12 号 P497-502　2022 年 12 月

・岡崎佐智子、岡崎啓明　厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業　原発性高脂血症に関する調査研究班　原発性脂質異常症における移行期医療（付録 2）・https://nanbyo-lipid.com/wp/wp-content/themes/nanbyo_lipid/pdf/disease07_02.pdf 」厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業　2022.12

・岡崎佐智子　日本人若年者の脂質異常症とその診療方針　Medical Practice 40(1):87-93, 2023.1

・小倉正恒、岡崎佐智子、岡崎啓明、多田隼人、土橋一重、中村公俊、松永圭司、三井田孝、南野哲男、横山信治、斯波真理子　厚生労働省・厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患政策研究事業・原発性脂質異常症に関する調査研究班・原発性脂質異常症における移行期医療研究サブグループ：「原発性脂質異常症における移行期医療」https://nanbyo-lipid.com 2023.1

・**八尾　厚史**. 成人でみられる先天性心疾患　(成人先天性心疾患). *内科学 (ASAKURA Internal Medicine)*. 2022;第 12 版:II-206-212

・**八尾 厚史,** 犬塚 亮, 水野 篤, 相馬 桂, 白石 公, 永井 良三, 丹羽 公一郎. 最新の achd レジストリ研究　成人先天性心疾患対策委員会(jncvd-achd)achd 患者レジストリーから見える achd 患者特性. *日本成人先天性心疾患学会雑誌*. 2022;11:177

・**八尾 厚史**. 成人先天性心疾患に合併した種々の肺高血圧をどう扱うか. *日本成人先天性心疾患学会雑誌*. 2022;11:126

・**八尾 厚史.** 現代における最善かつ安全な achd-pah 総合診療とは? *日本肺高血圧・肺循環学会学術集会・日本小児肺循環研究会プログラム・抄録集*. 2022;07:184

・梅井 正彦, 相馬 桂, 齊藤 暁人, 小島 敏弥, 常盤 洋之, 後藤 耕策, 小室 一成, **八尾 厚史.** フォンタン循環における洞調律維持を基本とする不整脈管理の重要性. *日本成人先天性心疾患学会雑誌*. 2022;11:29-36

・梅井 正彦, 相馬 桂, 齊藤 暁人, 小島 敏弥, 常盤 洋之, 後藤 耕策, 小室 一成, **八尾 厚史.** フォンタン循環における洞調律維持を基本とする不整脈管理の重要性. *日本成人先天性心疾患学会雑誌*. 2022;11:29-36

・梅井 正彦, 相馬 桂, 小島 敏弥, 松原 巧, 齊藤 暁人, 常盤 洋之, 後藤 耕策, 小室 一成, **八尾 厚史**. デバイス治療を要する先天性心疾患における画像検査・心臓電気生理検査の意義について. *日本心臓病学会学術集会抄録*. 2022;09:15-15

・相馬 桂, 齊藤 暁人, 稲葉 俊郎, 後藤 耕策, 常盤 洋之, 梅井 正彦, 小室 一成, **八尾 厚史**. 右心不全に挑む/右心不全を考える　achd-pah 診療から右心不全治療を考える. *日本成人先天性心疾患学会雑誌*. 2022;11:143

・相馬 桂, 八尾 厚史. 右室不全治療　achd-pah 治療における右室機能評価. *日本肺高血圧・肺循環学会学術集会・日本小児肺循環研究会プログラム・抄録集*. 2022;07:199

・小島 敏弥, 藤生 克仁, 齊藤 暁人, 相馬 桂, 八尾 厚史, 小室 一成. Achd 症例のデバイス植込における事前精査の重要性. *日本成人先天性心疾患学会雑誌*. 2022;11:205

・小島 敏弥, 藤生 克人, 齊藤 暁人, 相馬 桂, 八尾 厚史, 小室 一成. Fenestration を介して治療し得た単心室、dextrocardia、fontan 後の心房頻拍の一例. *日本成人先天性心疾患学会雑誌*. 2022;11:218

・春原 光宏, 八尾 厚史, 井上 有希子, 高野 陽子, 柳元 伸太郎. 新型コロナウイルスに対する東京大学の活動制限指針と保健センター受診者数の推移. *Campus Health*. 2022;59:151-152

・春原 光宏, 高野 陽子, 八尾 厚史, 村野 陽子, 江本 範子, 岡崎 佐智子, 柳元 伸太郎. 東京大学本郷保健センターにおける発熱外来の開設と受診者数の推移. *Campus Health*. 2022;59:153-154

・秋山 直美，落合 亮太，三谷 義英，八尾 厚史，檜垣 高史，水野 篤，丹羽 公一郎，白石 公．先天性心疾患領域に携わる医師が移行期医療支援センターに期待する機能．*日本成人先天性心疾患学会雑誌*．2022;11:15-23

・三谷義英 安河内聰，白石公，赤木禎治，八尾厚史，落合亮太，坂本喜三郎，芳村直樹，岩永史郎，吉松淳，檜垣高史，賀藤均，新家俊郎，赤阪隆史．先天性心疾患の成人への移行医療に関する提言-第 3 版-．*日本循環器学会ホームページ(https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/04/ACHD_Transition_Teigen_rev3_20220426.pdf)*．2022:1-25

・高谷 陽一，赤木 禎治，坂本 一郎，金澤 英明，中澤 学，村上 力，八尾 厚史，七里 守，佐地 真育，廣上 貢，福 康志，細川 忍，多田 憲生，松本 賢亮，今井 逸雄，中川 晃志，伊藤 浩．ガイドラインの先を行く肺高血圧治療-従来治療に挑む　肺動脈性肺高血圧症を伴う心房中隔欠損症に対する治療・修復法の有効性(efficacy of treat and repair strategy for atrial septal defect with pulmonary arterial hypertension)．*日本循環器学会学術集会抄録集*．2022;03:SY03-02

・後藤 耕策，齊藤 暁人，相馬 桂，常盤 洋之，梅井 正彦，稲葉 俊郎，犬塚 亮，平田 康隆，小室 一成，八尾 厚史．肺動脈性肺高血圧・巨大肺動脈瘤を伴う未修復完全大血管転位症(i 型)の 67 歳女性．*日本成人先天性心疾患学会雑誌*．2022;11:265

・後藤 耕策，小島 敏弥，常盤 洋之，梅井 正彦，大島 司，齊藤 暁人，松原 巧，清水 悠，相馬 桂，荷見 映理子，小栗 岳，藤生 克仁，八尾 厚史，小室 一成．補助人工心臓植込後にリードレスペースメーカ植込みを施行した修正大血管転位症の一例．*日本心臓病学会学術集会抄録*．2022;09:13-15

・久末 直子，春原 光宏，井上 有希子，八尾 厚史，立石 晶子，村野 陽子，柳元 伸太郎．東京大学保健センターにおける新型コロナウイルス感染症検査の実施について．*Campus Health*．2022;59:146-147

・久末 直子，坂本 愛子，柳元 伸太郎，八尾 厚史．Sars-cov-2 を含む多種ウイルス迅速抗原同定定性検査キットの有用性に関する検討．*医学検査*．2022;71:712-718

・久末 直子，坂本 愛子，柳元 伸太郎，八尾 厚史．大学保健業務における covid-19 迅速抗原検査キットの有用性に関する検討．*Campus Health*．2022;59:144

・春日 良峰，佐藤 真由美，西村 文親(2022)．精神科病棟に勤務する看護者の集団エゴグラムの有用性．日本精神科看護学術集会誌，65 巻 1 号 120-121

３）国際学会

・Kanno Y, Nakano M, Matsui Y, Ichikawa T, Yamakawa D, Fujii Y, Hatori A, Fukuda S, Chikazu D, Ogasawara T, Kawase-Koga Y.　Highly efficient differentiation of chondrocytes from human dental pulp stem cells using a thienoindazole derivative small compound TD-198946. ASBMR 2022 Annual Meeting, Austin, Texas, USA,

2022.

・Hatori A, Fujii Y, Kawase-Koga Y, Ogasawara T, Kanno Y, Chikira J, Minami S, Yamakawa D, Fukuda S, Chikazu D.　VCAM-1 and GFPT-2: Predictive markers of osteoblast differentiation in human dental pulp stem cells. ASBMR 2022 Annual Meeting, Austin, Texas, USA, 2022.

・ RNA-recognizing immune sensor regulates bleomycin-induced activation of macrophages, lymphocytes, and neutrophils and subsequent lung fibrosis
Takashi Ishii[1,2] Yusuke Murakami[1]　Tomoya Narita[1] Takahide Nagase[2] Naomi Yamashita[1]

1. Department of Pharmacotherapy, Research Institute of Pharmaceutical Sciences, Musashino University 2. Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo
APSR 2022 Congress, Seoul, Korea 2022/11

・Kado A, Tsutsumi T, Okushin K, Fujinaga H, Moriya K, Yotsuyanagi H, Koike K, Fujishiro M. Differences of peripheral memory T cell subsets in liver fibrosis and pathological progression of nonalcoholic fatty liver disease. American Association for the Study of Liver Diseases - The Liver Meeting 2022.

４）国内学会

第 60 回全国大学保健管理研究集会（神奈川、2022 年 10 月）

・大学生における口腔内所見と健康診断所見との関連について
大里　愛、鴨頭　輝、阿部　雅修、藤原　夕子、成田　理香、内野　夏子、石橋　牧子、丸岡　亮、谷口　明紗子、柏木　美樹、内田　洋子、熊谷　賢一、山田　由紀子、春原　光宏、井上　有希子、立石　晶子、大久保　和美、星　和人、小笠原　徹、柳元伸太郎

第 62 回日本呼吸器学会学術講演会　（大阪、2022 年 4 月）

・自然免疫受容体TLR4の共因子MD-2の気道上皮細胞-樹状細胞の炎症制御を介したダニ誘発気管支喘息の病態制御　石井崇史[1,2] 村上祐輔[1] 成田知也[1] 長瀬隆英[2] 山下直美[1]1. 武蔵野大学薬学部 薬物療法学 2. 東京大学医学部附属病院 呼吸器内科

第71回日本アレルギー学会学術大会（東京、2022年10月）

・COVID-19ワクチン免疫反応のアレルギー疾患保有者における評価 石井崇史[1] 濱田健介[1] 岡本耕[2] 十菱大介[2] 橋本英樹[2] 柳元伸太郎[1]
1. 東京大学保健健康推進本部 2. 東京大学医学部附属病院 感染症内科

第 64 回日本消化器病学会大会 JDDW2022（2022 年 10 月）

・若年期の飲酒習慣がもたらす肝酵素の変化と末梢免疫の酸化ストレス関連の遺伝子発現

門 輝, 森屋 恭爾, 井上 有希子, 柳元 伸太郎, 奥新 和也, 藤永 秀剛, 堤 武也, 四柳 宏, 小池 和彦, 藤城 光弘

第 72 回 日本体質医学会総会（和歌山県和歌山市、2022 年 10 月）

・「エネルギー消費の促進」に基づく生活習慣病の精密医療を目指した研究　平池勇雄

2022 年度 日本数理生物学会年会（オンライン、2022 年 9 月）

・「エネルギー消費の促進」に基づく生活習慣病の精密医療を目指した研究　平池勇雄

第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会（兵庫県神戸市、2022 年 5 月）

・「エネルギー消費の促進」に基づく肥満の精密医療を目指した研究　平池勇雄

第 119 回日本内科学会講演会（京都、2022 年 4 月）

・心血管病予防のための若年成人 LDL-コレステロール健診の意義　岡﨑佐智子、高瀬暁、田中督記、久保田みどり、高梨幹生、飯塚陽子、柳元伸太郎、門脇孝、山内敏正、岡崎啓明

第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会(兵庫、2022 年 5 月)

・新入生健診を契機に診断された抗 GPIHBP1 自己抗体による原発性高カイロミクロン血症　岡﨑佐智子、田中督記、高瀬暁、高梨幹生、石婧璇、飯塚陽子、木村孝穂、村上正巳、柳元伸太郎、山内敏正、岡崎啓明

・脂肪摂取制限が奏功し正常分娩に至った、LMF1 ナンセンス変異ホモ接合体による妊娠時の重度高中性脂肪血症性急性膵炎の一例　田中督記、高瀬暁、岡崎佐智子、石浦浩之、濱野頌子、石婧璇、高梨幹生、飯塚陽子、辻省次、山内敏正、岡崎啓明

第 54 回日本動脈硬化学会総会・学術集会(福岡、2022 年 7 月)

・FHBL 複合ヘテロ接合体診断症例から考察する原発性低脂血症における遺伝子解析・家系解析の意義について　高瀬暁、石浦浩之、高木祐吾、佐渡円香、小松なぎさ、田中督記、高梨幹生、李騁騁、石婧璇、飯塚陽子、辻省次、門脇孝、山内敏正、岡崎佐智子、岡崎啓明

全国大学保健管理研究集会 60 回、（横浜、2022.10.19-10.20 ポスター）

・東京大学におけるコロナ前後での学生の健診結果の解析　**立石　晶子,** 春原　光宏, 細井　恩, 井上　有希子, 柳元 伸太郎

第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会、（横浜、2022.4.25-27　口演）

・乾癬性関節炎における患者自身による健康評価の検討　**立石 晶子**, 大野 久美子, 吉崎 歩, 柴田 彩, 浅野 善英, 佐藤 伸一, 田中 栄, 藤尾 圭志, 神田 浩子

第 26 回日本心不全学会学術集会　（奈良県奈良市奈良県コンベンションセンター2022 年 10 月 21-23 日　）

・共同演者　小児期発症心筋症患者の移行期医療体制に関する全国調査　相馬 桂, 八尾 厚史、落合　亮太、筒井　裕之

・共同演者　Preoperative respiratory care exerts a beneficial effect on severe restrictive lung disorders in adult patients with tetralogy of Fallot　Akihito

Saito, Katsura Soma, Atsushi Yao, Masahiko Umei, Masanobu Taya, Eisuke Amiya, Yasutaka Hirata, Issei Komuro

ACHD-PAH web セミナー in AICHI　(web 2022 年 12 月 7 日)

・演者　東大病院における先天性心疾患移行医療の現状- ACHD-PAH 診療を例に　八尾 厚史

第 24 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会（愛媛県松山市 愛媛県県民文化会館 2023 年 1 月 13-15 日）

・座長　シンポジウム 1 （４演題） テーマ：ACHD 診療体制の展開 専門医制度が始まってからどう変化するのか　八尾 厚史

・共同演者　心室中隔欠損に伴う肺高血圧症に対する Treat-and-Repair による治療戦略　梅井 正彦、相馬 桂、平田 康隆、後藤 耕策 、常盤 洋之 、齊藤 暁人、小島 敏弥 、笠原 真悟、赤木 禎治 、小室 一成 、八尾 厚史

・座長　YIA & 優秀演題口演(3 題) 八尾 厚史

・共同演者　高齢先天性肺動脈弁狭窄症に対するバルーン拡張術　齊藤 暁人､相馬 桂、後藤 耕策、常盤　洋之、篠原 宏樹、梅井 正彦、白神 一博、犬塚 亮、安東 治郎、平田 康隆、八尾厚史、小室 一成、

・共同演者　経皮的心房中隔欠損閉鎖術が心機能に及ぼす効果に関する心臓 MRI をもちいた解析　常盤 洋之、齊藤 暁人、稲葉 俊郎、後藤 耕策、梅井 正彦、相馬 桂、上原 雅恵、小室 一成、八尾 厚史

・共同演者　補助人工心臓植込後にリードレスペースメーカ植込みを施行した修正大血管転位症の一例　後藤 耕策、小島 敏弥、常盤 洋之、梅井 正彦、齊藤 暁人、相馬 桂、藤生 克仁、八尾 厚史、 小室 一成

・共同演者　心内アクセス困難症例へのデバイス植込みでは心臓外科、不整脈医、先天性心疾患医の集学的なアプローチが重要である　小島 敏弥、佐藤 要、犬塚 亮、平田 康隆、相馬 桂、八尾 厚史、小室 一成

第 47 回日本精神科看護学術集会, （オンライン開催.2022 年 6 月 24 日-6 月 25 日.）

・精神科病棟に勤務する看護者の集団エゴグラムの有用性. 春日 良峰, 佐藤 真由美, 西村 文親.

全国大学メンタルヘルス学会第 44 回総会, （オンライン開催.2022 年 12 月 22 日-12 月 23 日.）

・大学生を対象にした精神疾患ハイリスク・予備群検出のための質問紙の開発.

西村 文親, 大島 紀人, 佐々木司, 渡辺 慶一郎, 小佐野重利.

第 62 回日本呼吸器学会学術集会（京都、2022 年 4 月）

・本学における新型コロナウイルス抗体疫学研究　三谷 明久、江本 範子、春原 光宏、濱田 健介、堀江 武、井上 有希子、齋藤 美奈子、石井 崇史、田宮 浩之、村野 陽子、長瀬 隆英、柳元 伸太郎

第 71 回日本アレルギー学会学術大会（東京、2022 年 10 月）
・歯の根管治療後に皮疹を生じた、ホルマリンを原因とするⅠ型アレルギーの 3 症例
山口正雄、山本　藍、緒方善政、會田啓介、白神梨沙、萩谷政明、右田雅士、花上伸明、田中祐輔、田宮浩之、長瀬洋之

B. 外部資金等

1. 科学研究費助成事業

1）学術研究助成基金助成金

計　8 件

2）厚生労働科学研究費補助金

計　3 件

2. 寄 附 金

計　7 件